

飾大豊原教会

設立・平成9年1月26日

祭典日・
第二日曜

中華民国台湾省台中懸



初代会長
廖 鸞

平成九年一月二十六日
初代会長 廖 鸞 任命

飾大豊原教会の最初のよふぼくは、豊原市でオートバイの販売店を経営する張條樹根である。飾大三代会長竹川俊治が昭和五十七年四月、大阪市の都島で戸別訪問のにいをいがけをしている時、張の長男の住むアパートを訪れた。長男は大阪市の日本語学校に就学していたが、まだ帰宅していないのでその入り口の所で張が待っているところへ、たまたま竹川会長が話しかけ、にいをかけたのである。竹川の話に感銘を受けた張は、その翌日におちばにかえり、大阪滞在中におさづ

けの理を拝戴した。竹川会長はその半年前から単身台湾で布教をしていたが、張の住む豊原市の名前も知らず、もちろん行ったこともなく、張と知り合つて初めて豊原市へ行き、張の友人知人にないをいがけをするようになった。

豊原市に楽天協会という経営者達の有志の会（会員数二百余人）があるが、そ

の秘書長である張国鎮が熱心に信仰するようになった。張国鎮はにいをいがけに励み、その年の十月に豊原から二十一人がおちばがえりをし、よふぼくととなった。

張條樹根の長男は、その後長崎国際大
学に入学したが、夏休みに大阪の友人宅
へ行く途中に交通事故に遭い、瀕死の重
傷となった。頭の手術をし、二度目の手
術もしなければならぬと医師から言わ
れ、台湾から駆けつけた両親は必死の思
いで竹川会長におたすけを願った。飾大
からも連日病院へおたすけに行つたが、
不思議なご守護をいただき、二度目の頭
の手術をすることもなく、その後も結構
にお連れ通りいただいた。大学は二年間
の休学をしたが、その間に長男は修養科
を修了し、後遺症もまったく無く、元氣
で今も長崎市に住んでいる。

この間の経緯を豊原市の人々はよく
知っており、そのすばらしいご守護に
皆々打ち驚き、お道のすばらしさを知る



教会の外観

きつかけとなった。そして、ぜひとも豊原市に布教所を設置しようという気運が盛り上がった。

どこに布教所を開設するか、なかなか相談がまとまらなかった時、これまた存命の教祖の不思議なおはたらきが現れるのである。



神殿内部

張国鎮は豊原市で電気器具の卸商を経んでいたが、店が手狭となり、すぐ隣の約七十五坪の空地を購入したいと願っていたが、地主は価格はどれほど高くても絶対に売らないと頑なに断っていた。

張国鎮は竹川会長に相談をし、どうす

ればよいか教えてほしいと言った。竹川会長は張国鎮自らが心を定めて親神様、教祖に真剣にお願いをせよと諭した。国鎮はもしこの土地が手に入ればここに親神様をお鎮めさせていたたくと誓った。それから三ヶ月後、張国鎮の定めた心に乘って風向きが百八十度転換した。頑固な地主の方から、値段はその当時の相場より早く買ってくれと言ってきたのである。早速それを買入れ、そこに七階建てのビルを建て、最上の六、七階を親神様、教祖のお宿に使っていただきたいと無償で提供した。ここに平成三年（立教一五四年）二月二十二日飾大豊原布教所を開設することができた。そして後に、この場所において飾大豊原教会のお許しを戴くこととなる。

布教所開設には、その所長として樂天協会の会長であった張金地が就任したが、教会設立にあたっては、竹川会長の指示により、廖鸞がお許しを頂いた。

廖鸞会長は台湾嘉義の生まれで、嘉義女学校を卒業し、若い頃から熱心な仏教徒であり、兄は嘉義市でも有名な僧侶である。夫と早くから死別し、子供も二人

独立していた。豊原からの二十一人のおぢばがえりに加わり、おぢばの清浄で厳かな雰囲気、また別席のお話に今までまったく想像したことのない信仰のすばらしさに感激し、その後お道に傾倒し熱心に信仰に励むようになった。修養科及び教会長資格検定の前期後期を修了。修養科中に糖尿病の身上をご守護いただき、また動かなかった左手中指も自由に動くようになった。彼女は豊原の布教所のリーダー格として、にをいがけやおたすけ、また信者の丹精に日夜を分かたず、バイクに乗ってつとめた。



こどもおぢばがえりのポスター

豊原教会の設立にあたっては、竹川会

長の指示もあり、よふぼく、信者の人望が高い廖鸞を全員一致で推薦することとなり、飾大豊原教会の初代会長のお許しを頂いたのである。



自宅電気店での張國鎮さん

その後、教会移転の話が持ち上がり、廖鸞会長は自分所有の土地一千平方メートルをお供えし、そこにささやかであるが鉄筋二階建ての本格的な神殿及び教職舎の普請を行い、平成十六年（立教百六十七年）七月十日、教会移転建築落成奉告祭を執行した。なお、十二年間に

わたり旧の神殿及び教職舎のガス、水道電気代をはじめ一切の諸経費はすべて張国鎮により無償で提供された。

この普請を通して豊原教会のよふぼく信者は文字通り一手一つとなった。奉告祭には、豊原市長はじめ豊原市出身の行政院の委員（日本の衆議院に相当）等、多くの来賓が参拝をした。



平成二十一年六月十日 信者さんと一緒に

教会長として熱心に励んでいた廖鸞会長であったが、平成十九年秋頃から身がすぐれず、平成二十一年七月二十四日、八十五歳をもって出直した。

平成十二年五月二日にとめられた飾大東教会創立百十周年記念祭には飾大豊原教会から四十五人が参拝したが、会長を始め有志が御臨席下された真柱様に台湾の民俗衣装で踊りを披露し、拍手を頂戴したのは懐かしい思い出である。



飾東百十周年記念祭にて

尚、本人の遺言により、八月四日、飾大の竹川東一郎会長が斎主となり、天理教式の遷霊祭及び告別式を執り行った。台湾伝道庁からもこの告別式に参列して下さった。